

今夏も酷暑になると気象庁は予測をしています。この時季は気温の変化が著しく体調を崩しやすくなり健康を維持することが大切となります。

各医師会の諸先生方におかれましては、日頃より日本医科大学千葉北総病院に多大なご尽力を賜り

まして深く御礼申し上げます。当院は早いもので平成6年1月26日に開院し15年目を迎えました。ひとえに多くの医師会の諸先生方のご理解とご協力に感謝を申し上げます。

さて、今年4月の診療報酬改正は、全体改正率▲0.82%（診療報酬+0.38%・薬価▲1.2%）であり、厳しい医療経営を余儀なくされています。その中でも国は医療機能分化を優先課題として掲げています。現在、下表のように諸先生方からの紹介件数もお蔭様で着実に増えています。そのような中、地域医療連携パスとして①脳卒中②乳がん③糖尿病④急性心筋梗塞の4疾病を対象とし、現在64医療機関（増加中）と連携させていただくことになりました。今後は大腸がんや胃がんを対象拡大する予定です。地域医療連携パスの対象となる患者様には「地域連携カード」を作成し、患者様と諸先生方及び当院との連携ツールとして発行させて頂きましたのでご活用のご程お願い申し上げます。

更には地域医療連携パスとは別に、当院と連携医療をお願いするために300を超える多くの諸先生方からご賛同を得て登録をして頂きましたので、地域医療貢献のために諸先生方と協力して、より良質な安全な医療提供に心がけてまいります。

諸先生方とのパイプ役である医療連携室を病院玄

## 「ご挨拶」

事務長

石井 勝則

(いしい かつのり)



関入口に移動し、1名増やし5名体制としました。また、諸先生からの問い合わせに対応できる時間を従前17:00迄（土曜16:00）でしたが、現在18:00迄（土曜17:00）に変更しました。今後、整備が整い次第に時間を延長する検討を進めておりますので、今ま

でに増したご指導の程お願いいたします。

話題が変わりますが、ドクターヘリ出動回数は、平成13年10月に運用開始してから本年3月末までに延べ3,809回の出動を記録しており、昨年度は年702回の出動実績となっています。その間、多くの患者様に対して早期の医療着手、搬送時間の短縮が達成され救命できたことを誇りとし、今後とも更に救急医療に貢献し危機に瀕した人々を救えるよう積極的に取り組んでいきます。全国に13都道府県14機（平成20年度末）が配備されている中で最も出動回数が多いことにより、これから配備する県の職員や医療機関の方が毎月のように見学要請があり、先駆者として培ってきた経験を基に導入から運営に至る全ての質問について誠意を持って対応させて頂いています。

今、国は後期高齢者医療制度について見直しが進められています。このように急速な医療制度改革が進む中で医療を提供する我々にも戸惑いがありますが、地域医療密着型医療を展開するために先生方と一緒に取り組んでまいります。

最後となりましたが、各医師会の諸先生方にご協力をお願いしながら連携医療を継続してまいりますので、引き続きご協力とご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 【過去3年間の紹介医療機関数と紹介患者数】

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	H17年度対前年	H18年度対前年
医療機関数	1,572件	1,643件	1,814件	115.4%	110.4%
紹介患者数	9,519件	10,672件	10,912件	114.6%	102.2%

## 「集中治療室」ってナンのこと？ 室(へや)の名前？

集中治療室 医局長 横山 真也  
(よこやま しんや)

「昨日、またテレビでやってましたね。北総病院。毎回、先生が出るんじゃないかと思って見ていたけど、わからなかった。出てました？」

「ああ、救命センターのドクターヘリ特集ね。すごいよね。頑張ってるよね。」

「えっ？先生の所じゃないの？」

「救急外来と集中治療室で、重症の救急疾患を診るのは同じなんだけど、向こうは外傷などが中心で、僕は主に心臓系の救急疾患を診ているんですよ。」

「でも、集中治療室って。一緒じゃないの??？」

内科の予約外来で自分が診察している患者さんから、最近よく訊かれます。確かに患者さんから見れば、どちらも「急患」を診ていて、かつ「白い」白衣ではなく黒っぽい濃い白衣を着ていて区別が付き難いのかも知れません。

さて、当院の救命救急センター（CCM）は、益子先生のもと、ドクターヘリという飛び道具を使って今や一世風靡しています。千葉北総病院が有名になり、千葉県で一番人気となり、全国に進出を始めています。おっと、他科の宣伝をする役ではありませんでした。我々「集中治療室」とは何ぞや。という話です。我々集中治療室（ICU & CCU）は、循環器内科重症・救急部門というとわかりやすいかもしれません。CCMのような飛び道具は持ってありませんが、心臓の悪い患者様を中心に、「集中治療室」で文字通りの集中治療を行い、救命し、社会復帰して頂くために尽くす部署です。

必要なものは体力と根性そして愛情です。必要に応じて緊急カテーテル治療、大動脈バルーンパンピング、経皮的心肺補助装置、血液浄化などといったプチ飛び道具を駆使します。

主に CCM、循環器内科一般部門、心臓血管外科と連絡を密に取りながら、現在、畑部長のもとスタッフ6人で日々精進しております。近隣の諸先生方、急性心筋梗塞、急性肺塞栓症、急性大動脈解離、急性心不全、重症不整脈などの患者様は、どうぞ我々に連絡を下さい。全力で治療に専念致します。

なお、以前は青いユニホームでしたが、この春よりほぼ黒に近い濃いグレーに変わりました。院内で黒っぽいユニホームを見たら我々です。これからもどうぞ宜しくお願い致します。決して牛角の店員さんではございません……。



スタッフ一同

## 泌尿器科のご紹介

泌尿器科 部長 坪井 成美  
(つばい なるみ)

泌尿器科の部長の坪井です。千葉北総病院が平成6年1月に開院した時に部長として着任し、3年8ヶ月勤務していました。その後千駄木の本院に転勤し、武蔵小杉病院の部長をしておりましたが、平成15年11月から再び北総病院の部長として戻ってまいりました。

開院の頃から通院なさっていらっしゃる患者様にお会いすることもあり、お元気な顔を拝見するとうれしくなります。

現在5名の泌尿器科医で外来、検査、手術、そして病棟管理を行っております。昨年度は441件の手術、

検査を行いました。主なものとして、前立腺生検 163 件、内視鏡的膀胱癌切除術 60 件、前立腺癌には腹腔鏡下前立腺摘出術 18 件、開腹的前立腺摘出術 8 件、腎癌では腎摘出術 12 件、腎部分切除術 2 件、腎盂尿管癌 3 件などでした。尿路結石に対して体外衝撃波結石破碎術 51 件、尿管鏡による破碎術 23 件、膀胱結石破碎術 7 件を行い、良性疾患である、前立腺肥大症に対しては経尿道的前立腺切除術 16 例と、ホロミウムレーザーを用いる HoLAP という新しい手術を 11 例におこないました。

PSA が前立腺癌の早期発見に役立つことから、各地の市町村では基本検診に組み入れて検査を行うようになって来ました。それに伴い PSA が高いので精密検査を受けなさいとの指示をもらい、前立腺癌だと思って来院する方が増えています。正常値は 4 以下となっていますが、4 を越えたからといってすべてが癌という訳ではありません。実際には PSA が 4 から 10 の間の人に前立腺生検を行うと、病理診断で癌が発見されるのは約 3 割です。残りの 7 割は大きな前立腺肥大症や前立腺炎などで PSA が上昇しているものです。昨年度には 163 例の前立腺生検を行い約 50 例の前立腺癌が発見されたこととなります。前立腺癌の治療法はさまざまなものがあり、患者様 1 人 1 人の状態やご希望に沿った治療法を選択していただくこととなります。当院でできる治療法は限られたものであり、ご希望なされる治療法が当院では出来ない場合には可能な施設を紹介

させて頂いております。

以前は医者が癌だと患者様にお伝えしたら、こういう手術しましょうとご本人と家族の方に指示をして治療法を決めていた時代がありました。しかし、今はそういう時代ではなく、患者様がどういう治療を受けたいかをご自身で決めなければならない時代になったのです。我々医者はある癌のこの病期であれば、治療法はこれとこれがあり、その治療成績と副作用はこれこれしかじかですとお伝えし、患者様が家族の皆様と相談し自ら治療法を決めなければならなくなったのです。日本医大千葉北総病院泌尿器科の治療方針は世間の常識と少し違った所がありますので、セカンドオピニオン（違う医療施設（病院）で話を聞いてみてどうしたら良いのかを決める手掛かりにする）を聞いてみたいと遠慮無く言ってください。そのお申し出によって医者が不愉快に思うなどということはありませんし、行ってきた後また相談することも厭いませんのでご安心してください。

泌尿器科外来は現在非常に混み合っております。予約してあってもかなりお待ち頂いているのが現状です。通院なさっている皆様に多大なご迷惑をお掛けしているのは重々承知しております。しかし医局員一同が皆様のために最良の治療法を考えながら精一杯診療を行っておりますので、時間が掛かることもご了承頂ければ幸いです。

## 女性診療科・産科からの近況報告

女性診療科・産科 部長 鴨井青龍  
(かもし せいりゅう)

女性診療科・産科の鴨井です。千葉北総病院に勤務して 11 年になります。前部長の河村 堯教授のもとで 9 年間、その後を引き継いではや 2 年が経ちました。診療内容は、周産期、内分泌、婦人科腫瘍と一般的臨床を網羅し標準的な治療を行なっていますが、悪性腫瘍患者の診療には力を注いでいます。その一つは、進行子宮頸癌における広汎子宮全摘術の自律神経温存であります。従来の手術では、膀胱を支配する神経を切断し、術後の排尿障害をきたすのは当然と考えられてきました。当院では、昨年より自律神経の温存を試みるようになり、ほぼ 100% の尿意開腹率です。従来は排尿訓練のため術後 1 ヶ月近くの入院を要したのが、最近では、10 日から 2 週間弱と良性の手術並みに入院期間が短縮しています。もう一つは、若年の 1 期浸潤癌症例で妊娠を希望する患

者には、骨盤リンパ節を郭清し、子宮傍組織とともに子宮頸部を摘出するのですが、卵巣および子宮体部を温存して妊孕能を残す手術（広汎性子宮頸部摘出術）を行っています。また、子宮体癌に関しても、子宮およびその付属器、さらに後腹膜のリンパ節を郭清するのが標準的術式ですが、若年者の早期癌に対しては詳細な病理組織学的検討を基礎に高用量黄体ホルモン療法による子宮の温存を積極的に行っています。以上のような適用症例がありましたら、ご紹介いただければ幸いです。

次に、当科の紹介を兼ねて、2006 年の診療統計を簡単に報告させていただきます。分娩数：238 件（うち帝王切開が 78 件）、癌に対する手術は子宮頸癌：33 件（上皮内癌：16 件、広汎手術 6 件）、子宮体癌：22 例（後腹膜リンパ節郭清を伴うもの：18 件）、卵巣癌：22

件（境界悪性：4件）、腹腔鏡手術：91件、子宮鏡手術：6件、良性の腹式手術：118件、腔式手術：22件であり、また手術時間の長い手術が増えています。また医局員は8人で、院内院外を問わず、夜間の緊急手術にも対応できるような体制で診療にあたっておりますが、決して余裕のあるものではありません。諸先生方からの

ご紹介を優先し、緊急に即応できるよう、いかにして外来診療に余裕をもたせられるかが現在の問題点であります。大学病院、また地域の中核病院としての機能を果たせるよう努力して参ります。今後、当院から逆にご紹介させていただく機会が増えるかと思っておりますがよろしくお願いたします。

## 乳がん患者さんを地域でサポートするために

乳がん看護認定看護師 成毛育恵  
(なるげ いくえ)

乳がんは年々増加し、年間40,000人を超える人が新たに乳がんと診断されています。女性の約25人に1人が乳がんにかかると計算され、女性の臓器別がん罹患率は第1位となっています。今後も乳がん患者さんは増加すると予想され、早期発見・早期治療の必要性の啓発活動や、乳がん患者さん・ご家族へのより専門的なケアの提供は社会的な役割といえます。

乳がん看護認定看護師の役割は、病名告知後の心理的サポートや、さまざまな治療に伴う看護、他職種との連携によるチーム医療の推進などがあります。現在は、病棟での乳がん患者さんへのケアが中心ですが、毎週木曜日に外来での活動を行っています。病棟での主な活動は、周手術期の不安の軽減や、リンパ浮腫予防を含めた術後の日常生活のセルフケア指導となっています。また、再発・転移のために治療を再開したり、終末期ケアのために入院される患者さん・ご家族への関わりも行います。

外来では、病名告知後の心理的フォローや、術後補助療法による副作用のモニタリングのために個別に面談を行うこともあります。入院期間の短縮化に伴い、外来での患者ケアが重視されており、短時間で的確な患者アセスメントや病棟との連携による継続的なケアが重要になると考えています。

当院では、乳房切除術を行う患者さんにクリニカルパスを使用しています。さらに、術後の補助療法（内分泌療法）を継続している患者さんには、乳がん地域連携パスの使用も開始しています。家庭や社会での役割を果たしながら、治療を続けている患者さんも増えてきており、患者さん・ご家族が安心して生活できる環境が必要になると考えています。

今後は、院内での活動のほかに、検診から継続治療まで一貫して行える地域づくりを目指し、地域の皆様と連携をとりながら活動を行っていききたいと思います。



## 小児X線検査の被曝低減への取り組み

放射線センター 技師長

川村 義彦

(かわむら よしひこ)

当放射線センターでは、地域の皆様に安心して検査をうけてもらえるように、開院当初から放射線機器のデジタル化に取り組んできました。デジタルシステムは従来のアナログシステムに比べて、良質な画像の提供と被曝低減の実現の可能性を秘め、その他の機能も併せ持つ特徴があります。この利点を生かして、X線単純撮影にはFCR装置を用いて当初の狙い通りに高画質の臨床写真を提供し、被曝線量も日本放射線技師会が患者さんのための低減目標値として設定した「医療被曝ガイドライン」



写真-1  
脊椎側弯症の全身被曝撮影

の値をクリアした低線量撮影を実現しております。その中でX線被曝の一層の低減が望まれている小児X線撮影について精力的に取り組む、大きな成果を上げておりますのでご紹介したいと思います。

(写真-1) 小児の脊椎側弯症の全身被曝撮影は躯幹部の全身被曝となり、被曝低減を強く求められている検査の一つです。写真は新たに開発した撮影技術により大幅な被曝低減を実現して得た症例写真です。SID: 200cm 85kV 1mAs 0.2mm

焦点で撮影が可能で、表面線量: 26  $\mu$ Gy という、従来の1/20以下の低線量被曝での撮影を実現し、現在は1/35程度まで落として検査を行い、付き添いのお母様方には大変なご好評を頂いております。この研究は北米放射線学会(RSNA)に発表し高い評価を得て、日経産業新聞にも画期的開発として掲載されたものです。(写真-2) 先天性股関節脱臼などの股関節疾患が対象の小児股関節撮影も、やはり被曝低減が必須の検査となっております。開発した技術ではSID:150cm 60kV 0.5mAs 0.3mm焦点で撮影が可能で、表面線量: 11  $\mu$ Gy という、従来の1/20以下の低線量被曝での撮影を可能にし、現在は1/40にして検査を行っております。その他の部位でも被曝低減を進めて、現在、成人撮影で1/5~1/10線量の標準化に取り組んでおります。



写真-2 小児股関節撮影

今回は放射線センターのX線単純撮影部門を紹介しましたが、他に造影・CT・MR・IVR・核医学・放射線治療部門があり、それぞれ精力的に診療ならびに臨床技術開発に取り組む、安全・安心・信頼の医療の確立に努めてここでも大きな成果をあげております。

### 日本医科大学の教育理念と学是

教育理念: 愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成

学 是: 克己殉公 (私心を捨て、医療と社会に献身するとの意味)

### 病院の理念

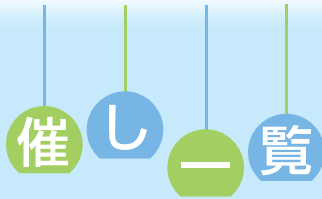
患者さまの立場に立った安全で良質な医療の実践と人間性豊かな良き医療人の育成

### 病院の基本方針

1. 患者さまの権利を尊重します
2. 患者さま中心の医療を実践します
3. 患者さまの安全に最善の努力を払います
4. 救急医療・高度先進医療を提供する指導的病院としての役割を担います
5. 地域の保健・医療・福祉に貢献するため、基幹病院としての役割を担います
6. 全ての人のために健康情報発信基地を目指します
7. 心ある優れた医療従事者を育成します
8. 先進的な臨床医学研究を推進します

### 患者さまの権利

1. 人間として尊重される医療を受けることができます
2. ご自分の病気、受ける医療について、十分理解できるよう説明を受けることができます
3. 説明を受けた医療について、ご自分で選ぶことができます
4. ご自分の診療記録を知ることができます
5. 他の医療機関の受診を希望される場合は、必要な情報提供を受けることができます
6. 患者さまのプライバシーは守られます



平成20年7月 ▶▶ 平成20年10月

### 北総循環器フォーラム

平成20年7月23日(水) 18:30~

テーマ：急性冠症候群の先端画像診断

演者：赤阪 隆史先生 ほか  
和歌山県立医科大学 教授

場所：大会議室

共催：北総循環器フォーラム  
第一三共製薬(株)

連絡先：内科 医局長 雪吹

### 緩和ケア委員会秋季講演会

平成20年9月6日(土) 13:30~16:00

講演：小澤 竹俊先生  
めぐみ在宅クリニック

場所：大会議室

共催：千葉北総病院緩和ケア委員会  
印旛市郡医師会、塩野義製薬(株)

連絡先：緩和ケア委員会 麻酔科医 益田



### 北総脳神経研究会

平成20年10月31日(金) 19:00~21:00

講演：濱本 真先生  
千葉北総病院神経内科 准教授

桑名 信匡先生  
横須賀北部共済病院院長

場所：大会議室

共催：北総脳神経研究会・ファイザー(株)

連絡先：脳神経外科 秘書 長門

### 第60回千葉北総神経放射線研究会

平成20年9月26日(金) 19:00~21:00

コメンテーター：伊藤 寿介先生  
(三元町病院神経疾患画像診断センター長  
前新潟大学歯学部歯科放射線科 教授)

場所：大会議室

共催：千葉北総神経放射線研究会  
田辺三菱製薬(株)

連絡先：脳神経外科 秘書 長門

### 第209回日本循環器学会関東甲信越地方会

平成20年9月27日(土) 8:50~

テーマ：To and From Clinical Cardiology

場所：東京ステーションコンファレンス

会長：清野 精彦先生  
千葉北総病院循環器内科 部長

連絡先：内科 医局長 雪吹

編  
集  
後  
記

地域医療推進を目指し「連携登録医制度」を始めましたが、お蔭様で現時点で300以上の施設にご参加頂きました。また、地域連携パスにつきましては、脳卒中、糖尿病、心筋梗塞、乳がんの4分野で順調に進んでおります。まだ、ご参加頂いていない医療機関におかれましても、ご賛同頂ける様でしたら是非医療連携室にご連絡下さい。

(広報委員会委員長・医療連携室副室長 畑 典武)



本広報誌についてご質問あるいはご意見のある方は下記までご連絡下さい。

日本医科大学千葉北総病院 医療連携室

〒270-1694 千葉県印旛郡印旛村鎌苅 1715

電話 0476-99-1810 / FAX 0467-99-1991 / e-mail:hata-n@nms.ac.jp

編集：日本医科大学千葉北総病院

広報委員会、医療連携室

印刷：伊豆アート印刷株式会社

発行：2008年7月(季刊誌)